



春の植生調査 体験学習



暖冬の影響を受けて、関東地方は桜の開花が例年より早く、当園の早春植物も1週間~10日程早い開花となっています。特に堇は当園で見られる全種類が開花し、楽しい花巡りの一時を過ごして頂けたのではと思います。外出自粛の状況での「3密」を避けマスクをして、初めての企画である 会員と一緒に体験学習は、少人数ならではのユックリと自然と触れ合える可能性の一つと感じました。

1

当園管理棟入口付近と国立がん研究所横

昨年、弁天池の近くで見られたアカネスミレ、そして園路入口付近沿いのマルバスミレの花は見つかりませんでしたが、意外な所で元気に咲いていました。来年も見れるように、環境が保たれているか注意が必要です。



マルバスミレ (丸葉堇):スミレ科  
花と葉は丸み特徴、この個体は側弁に毛がありケマルバスミレ、葉や花柄が根元から出る無茎種



タチツボスミレ (立坪堇):スミレ科  
野間土手の日差しが当たる斜面に群生して咲いていました。地上茎が伸びて葉が互生する有茎種



クロウメモドキ (黒梅擬):クロウメトキ科  
萼・花弁および雄蕊は5個(一部は4個)、この個体は4個で、非常に小さく目立たない



アカネスミレ (茜堇):スミレ科  
低山の明るく乾燥気味の林縁、無茎種、側弁・葉ともに毛が密生



ヒメジョオン (姫女菀):キク科  
茎の真ん中に空洞がない  
花弁の幅がハルジオンより太い



雌しべの柱頭は暗赤色で3裂

ニワトコ (接骨木):レンプクソウ科  
枝や幹を煎じて水あめ状になったものを、骨折の治療の湿布剤に用いたといわれる。

2

ナジランオの草地: ニオイタチボスミレが群生(勢力が強い)して咲いています、ジュウニヒトエも沢山開花し足元が賑やか



ニオイタチツボスミレ (匂立坪堇):スミレ科  
山地の明るくやや乾燥した草地、当園も同じ。  
有茎種、少し早咲きで甘い芳香有



ミツバツチグリ (三葉土栗):バラ科  
日当りの良い場所、3小葉は根元に、未だ褐色の草原には目立ちます



ジュウニヒトエ (十二単):シソ科  
やや乾いた明るい林内や道端



弁天池付近での湧水の説明  
本日は、弁天池からの水量は特に渇水状態ではなかった



ツボスミ/ニョイスミ(壺莖/如意莖)：スミレ科⇒変種アギスミレ(顎莖)  
高原の湿った場所、有茎種、開花時アギスミレの識別難しい



ズミ(酸実)：バラ科 ⇒ 別名コリンゴ等、当園の象徴的樹木、花言葉に「追憶」等、開花直前は花弁がピンクで白い花へ変化、黄色いのは雄しべの葯(風等で花弁が剥がれた)、「ズミ」の由来は実が酸っぱい、樹皮を染料(黄色)に用いたことによる。



メギ(目木)：メギ科 直径6mm程の淡黄色/緑黄色の花  
茎を煎じて洗眼薬に利用されたのが由来、6枚の花弁と雄しべ



アカフタチツボスミレ(赤斑立坪莖)：スミレ科  
葉の葉脈に沿って赤い斑が入る、花後に消えるものが多い



イヌザクラ(犬桜)：バラ科 ⇒ 来週には開花しそう  
花序の軸に葉はつかない、ウミスザクラは花序の下に葉が付く



ジロボウエンゴサク(次郎坊延胡索)：ケシ科  
川岸や低地の草原と幅広く見られる



イヌザクラ(犬桜)：バラ科 ⇒ 来週には開花しそう  
花序の軸に葉はつかない、ウミスザクラは花序の下に葉が付く

## 4 特記事項

外出自粛が必要な状況ですが、7日の緊急事態宣言の基本方針にも表現されているように、「屋外での運動及び散歩」は対象外となっています。当園のように自然観察を目的にした、静かな自然の森を、ご家族又は少人数でノンビリと散策し、リフレッシュして頂ければと思います。

これから長い期間の外出自粛が予想されます。今後の観察会については状況変化に応じて、「3密」を避ける対策をし、普段は園路から観察できない生態系を創意工夫で紹介し、自然の心地よさ・面白さに繋がるお手伝いが継続できればと願っています。

2020年4月8日

取り纏め者 T. F.